

1 久留米市の令和5年度予算編成及び執行方針等

政府は、直面する内外の重要課題に道筋をつけ、未来を切り開くための予算として、総額 114 兆 3,812 億円（前年度比 6.3%増）の令和 5 年度当初予算を編成した。この中で、人への投資、グリーン(GX)・デジタル(DX)をはじめとした成長分野への投資、少子化対策・こども政策の充実など包摂社会の実現、防災・減災など国民の安全安心の確保など、重要な課題に取り組むこととした。なお、税収は、過去最高の 69 兆 4,400 億円（前年度比 6.4%増）を見込んだ。

また、令和 5 年度の地方財政計画においては、地方自治体が地域のデジタル化や脱炭素化の推進など様々な行政課題に対応できるよう、地方交付税等の一般財源総額は、62 兆 1,635 億円が確保された。

本市においては、本年度も引き続き、市政運営の基本目標である「安心・安全で活力にあふれた、誰もが生き生き生活・活躍できる共生のまち」を目指したまちづくりを進め、SDGs の理念にも通ずる持続可能な発展を図るとした。その中でも重要な課題である、度重なる浸水被害の克服や長期化する新型コロナウイルス感染症への適切な対応、ウィズコロナ下での活力の創出、加速する少子化や人口減少への対応、GX・DX の推進などを掲げ、健全な財政を堅持しながらまちづくりを進める予算編成とした。

当初予算において、歳入面では、一般財源の根幹である市税が、個人市民税や法人市民税などの増収を見込み前年度比で 1.1%の増、国から交付される地方交付税は国税収入の増加に伴い 3.5%の増、借入金である地方債は、臨時財政対策債が大きく減少したことにより全体として 3.3%の減となった。

一方の歳出面では、流域治水の更なる推進や将来の成長が見込まれる産業への支援、様々な分野で活躍する若い世代への支援など、安心して暮らし、希望する人が子供を産み育てることができる優しさ、スポーツや文化・芸術、観光など市内外から人が集い、地域の様々な活動が盛んになり、みんなが笑顔になる賑やかさ楽しさ、を目指した事業を展開し、今の暮らしを守り、このまちを未来へつないでいくとした。

特別会計のうち国民健康保険事業は、生活習慣病の予防や特定健康診査の効果的な実施など被保険者の健康づくりに努めるとした。

競輪事業は、中野カップレースや大阪・関西万博協賛競輪(GⅢ)、ミッドナイト競輪の開催などによる収益の確保に努めるとした。

介護保険事業は、認知症の予防や介護予防活動の充実により、高齢者が元気に暮らせる環境づくりに努めるとした。

この結果、本年度の一般会計及び特別会計の当初予算総額は、前年度比 3.4%増の 2,475 億 3,100 万円となった。

また、7月に発生した災害の復旧事業関連予算をはじめ、物価高騰対策、国県の補正予算など、年度中に発生した情勢に対しては、速やかに補正予算を編成して対応することとし、一般会計においては、合計 13回、212 億 4,012 万円の増額補正を行った。

なお、本年度は、災害関連予算の財源確保のため、翌年度以降に対応が可能な不急なものや市単独事業などについて、一部執行停止や見直しを行うなど、予算執行の抑制を行っている。